

ご 挨拶

会長 惠 美 公二郎



平成19年4月15日に本会が設立され、早いもので2年の月日が流れ、この間役員諸先生のご協力の下、会員皆様に本会の意義をご理解戴き、二度の学術集会を盛大に開催することができたことは大きな喜びであります。

そして、この度第3回学術集会を神戸・大阪と比較的小児はりの盛んな関西の地から東京都で開催することが決定しました。まだあまり知られていない関東方面の先生方に「小児はり」を知って戴き、より一層社会の認識を高めることができ、本会の主旨に合うものと確信致します。関西は言うに及ばず北海道、関東、北陸と実技公開講演の要望があり、小児はりの普及が全国的に広がりつつある事実からも推測できます。

この潮流を世界的な普及に繋げることが第1回開会式での神戸大学名誉教授・伊東宏前兵庫鍼灸専門学校校長からの私達へのアドバイスであり、また知覚過敏な幼児から、皮膚の柔らかな乳児に至るまで適応可能な日本独自の小児鍼法を考え出された先達者の思いに報いることになるのではないかと考えます。

今回の特別講演では、ドイツにおいて実際の臨床で日本の小児はりの普及に取り組みおられるトーマス・ベルニッケ先生をお願いしています。ドイツの子供達を取り巻く環境や具体的な疾患・治療方法など余すことなくお話頂けると思います。また、公開講座ではその御夫人のカリン先生の赤ちゃんに対する接し方と独自の治療法などご講演頂くことになっており、充実した内容に心が躍るような想いです。

第1回では、情報通信分野での弊害が子供達の健康に与える影響を大阪大学前総長宮原秀夫先生が、第2回では乳幼児から生活習慣が不適応であり、それによる運動機能低下が情緒不安定症状に及ぶことの指摘を兵庫教育大学名誉教授原田硯三先生がそれぞれご講演下さいました。実際に最近のNHKの放送で東南アジアのある国の子供がテレビゲーム中毒に陥っているため、社会生活が出来ない状況が放映されていました。テレビゲームの普及が一層進んでいる先進国では、原田硯三先生がご指摘されたように若年層の凶悪事件に及んでいるといっても過言ではありません。このような点からもドイツでの子供達の健康状態や小児はりがこのような精神不安定症状に如何に活用されているのか、トーマス・ベルニッケ先生への質問を今から思い巡らせています。

そして実技講演は、東西対抗戦とでもいうような関東、関西の優れた先生方の実技供覧に興味湧きます。出来るだけ間近で見ることができるよう4会場に分け、可能な限り重複した講演も見逃すことの無いようにスケジュールを立ててみました。

会員皆様のご要望に合う様に腐心し、企画されています。ぜひ多くの先生方のご参加を心からお待ちしております。